



夢☆きらめいて

No.
18

加東市教育委員会/加東市人権・同和教育研究協議会 平成26年12月1日



「人権文化をすすめる市民運動」
社中学校 3年 藤原 愛理
さん

目次

● 市同教の活動	2	● 第2次男女共同参画プラン・セミナー	3
● 企人協の活動	4	● 人権啓発講演会	4
● 市民人権講座	5	● 小学生の人権作文	10
● 人権擁護委員の活動	6	● 人権標語・ポスター	12
● 広域隣保活動・地域に学ぶ体験学習	7	● 人権トピックス	15

旅先の食堂で不思議な光景を目にしました。隣席で昼食をとる四人家族。あまりに静かなので気になつて見ると、両親はスマホに、子どもはゲームに夢中。合間に食べ物を口に運んでいます。何のために旅行…。

二十三年度の内閣府の調査によると「家族そろって食事できない」は、朝食は25.5%、夕食は8.8%、核家族化、ライフスタイルの多様化により「孤食」が増えていました。家族団らんの食事は貴重なコミュニケーションの場として大切にしたいものです。

震災から学んだ多くのこと。それは、家族そろって暮らすこと自体が幸せなことであり、何気なく過ぎていく今を大切にすること。そして、どんな困難な状況下であっても、生きる希望と勇気を与えてくれるのが「家族の絆」であるということです。

「テレビはオフ」
家族のごはん

「会話はオン」(沖縄 中一女子)
せめて食事中は、携帯・スマホもオフ。家族の笑顔、温かい食事が絆を深めます。今一度、震災の教訓を思い起こし、自分の家族のあり方を見つめ直したいものです。

「家族の絆」

—受けつごう確かな実践・明るい職場づくり—

かな実践・明るい職場づくり 加東市企業人権教育協議会の活動状況

人権・同和教育担当者等の研修会を開催し、明るく温かい職場づくりをめざす。

私たち企人協は、人権が尊重される明るいまちづくりの一翼を担つて、人権啓発事業の実施や研修を積み重ねてまいりました。

職場（企業）においては、企業成果の向上に欠かせない心の通い合う人間関係づくり、職場でのいじめ、セクハラ、パワハラ防止に力点を置いた研修を積み上げてきたところです。

互いの人権を尊重するための研修は、企業の社会的責任を果たす上で欠かすことのできないものです。

私たち『企人協』に参加する市内の商店・企業は、社brook(44社)、滝野brook(26社)、東条brook(26社)の計96社に及び、企業規模(従業員数)に応じて年会費を納入して自主的な事業展開をしています。

■本年度重点目標



■本年度の取り組み 第一回研修会（5月20日） ビデオ視聴「新・人権入門」

③企業間、企業と企人協事務局との密なる連携を図り、推進体制の確立と研修内容の充実に努める。

②人権・同和教育にかかる
社員研修を行い、豊かな人
権感覚を培い、具体的行動
の実践に努めていく。

実際の出来事を基に作成された16のドラマから、多様化する職場では無意識の内に相手を傷つけかねないということを学びました。

◆企業を継続するために本業の中でCSRを向上することが大切であることを教えていただいた。

- ◆上司と部下の関係がそのままたとえられているようで、よくわかりました。
- ◆差別やいじめは、弱い小をもつ人のする事であり、人はそういう弱い心を持つ生き物である。いつもより一歩踏み込んだ話が聞けたかな。
- ◆話し方と人の気持ちの關係を深く感じることができました。

◆今までいくつかの人権研修を受けましたが、落語を通じて人権を考えるのは初めてでした。落語ならではの言い回しや昔の言葉など、日常で使うことのない言葉もいくつか知れて良かった。

第十一回 気づいて、考えて

第二回研修会（7月17日） 「CSRの観点から企業の人権問題を学ぶ」

第三回研修会（9月12日） 「落語の中の人権」

◆ 未加入の企業・商店の皆様、ぜひ加東市「企人協」に加入ください。

◆ 加入申込先

加東市人権教育課
企人協事務局

TEL 431-0544 まで

お誘いとお願ひ



第八期加東市民人権講座

各地域の人権教育を推進していただきための「第一養成講座」である「加東市民人権講座」は、今年で第8回目を迎えました。

本年度の受講登録者は地区推薦の249名。

また、市の幹部職員（44名）も受講登録し、率先して人権（同和）問題について研鑽することとなりました。

本年度の講座内容は三回シリーズで、7月に行われた「人権啓発講演会」と2月に実施予定の「人権を考える市民のつどい」の2つを補講の対象としています。要件を充たした方には、修了書の交付と記念品が授与されます。

第一回（6月21日）
「子どもの人権を守る子ども地域包括支援の取り組み」
「子どもの持つ力と地域ネットワークの力」

庄保 共子さん

子どもたちが求めていることは：

貧困、虐待、家庭内暴力など、悩みを抱えるいろいろな子どもたちの悩みを、

私達大人がどのように接したらいいか、また地域で取り組めることについてお話ししていただきました。



感想

◆ 知らないこと、知ろうとしていることを、実際に話を通じて初めて知ることになり、言葉にならない何かを感じました。自分自身、平和の中で暮らしていたことを改めて気づかされました。この機会に、見つめ直したいと思います。

◆ 子どもってすごい。この子（30代・男性）

◆ 子どもの里館長

どもたちは私たち大人が守っていかなければ。人ごとではないと思いました。（50代・女性）

◆ 部落とは自分が決めつけている部分が多いとよく分かつた。決めつけはダメである。（50代・男性）

第二回（8月2日）
「新しい視点から 同和問題を考える」

関西大学社会学部教授

石元 清英さん

専門は部落問題論、差別論で、同和問題の本質を分かりやすく説明いたしました。



感想

◆ 知り得なかった事、知ろうとした事を知り、同和について初めて真剣に考える機会となつた。

◆ 今までにない講義であった。（30代・男性）

◆ 今までにない講義であった。時

間が短く感じられ、内容が濃かった。（40代・男性）

◆ 部落とは自分が決めつけている部分が多いとよく分かつた。決めつけはダメである。（50代・男性）

第三回（10月25日）
「人権を大切にした まち（地域）づくり」

mottoひょうご 事務局長

栗木 剛さん



感想

◆ 人と人とのつながり、家族のつながりの大切さ、社会に出て困らないように、育んでいかないといけないと思いました。（40代・女性）

◆ 人権講演の必要性について考えさせられました。自分の視野を広げて成長するために、今後も積極的に参加したいと思える内容でした。（40代・女性）

※ 三回すべて出席された方には修了証の交付がなされました。



ご自身の自然学校での体験談を元に、笑いを織り交ぜつつ人権についてお話をいただきました。

◆ 隣の人とお喋りする時間も設けられ、笑い声があふれる和やかな講演会になりました。

◆ 人権とは差別だけでなく、様々な方面で考えることが必要であると感じた。また、話の組立てが上手で伝わることが非常に多かったです。（30代・男性）

◆ 人権とは差別だけでなく、様々な方面で考えることが必要であると感じた。また、話の組立てが上手で伝わることが非常に多かったです。（30代・男性）

—みんなの人権は守られていますか?—

社人権擁護委員協議会（加東部会）の活動



人権擁護委員は、地域のみなさんから人権相談を受け、問題解決のお手伝いをしたり、法務局の職員と協力して人権侵害による被害者を救済したり、みなさんへ人権について関心を持つてもらえるような啓発活動などを行っています。

- ① **人権相談活動**
地域のみなさんからの人権問題（差別・いじめ等）に関する相談に対応します。
- ② **総合相談**
社会福祉協議会の総合相談の中で人権相談を担当。社福祉センター・はびねす滝野・東条ボランティアセンターにて、毎月一回開催。
- ③ **特設人権相談**
法務局が掲げる推進月間に合わせて、人権に関する相談を受けます。
- ④ **隣保館人権相談**
民生児童委員とともに、隣保館・公民館にて、相談を受けています。



花を子どもたちが協力して育てることを通じ、協力・感謝することの大切さを学び、生命の尊さを感じる中で、より豊かな人権感覚を身につけることを目的とします。



- ⑤ **学校・保育園などにおける人権啓発活動**

① **「人権の花運動」**
花東市では、毎年三小学校の児童が事業に取り組んでいます。

② **「ミニ人権教室」**
毎年市内のアフタースクールに人権擁護委員が伺い、紙芝居や楽しいゲームをして、子どもたちとの交流を深めるとともに、友達の輪を広げるなど人権の大切さを伝えています。



- ③ **「種をまこう」**

小学校のオープンスクールの一環として、取り組んでいます。

他にも、人権侵犯に関する調査・救済活動など、地域での活動を数多く行っています。

お問い合わせください

人権は誰もが持つ大切な権利です。差別やいじめなど人権問題でお悩みがありませんたら、お気軽にご相談ください。

◎ 神戸地方法務局社支局
TEL 421-0201
◎ 加東市教育委員会
TEL 431-0544
人権教育課

■ 人権啓発活動

街頭にて人権啓発活動を年一回（8月・12月）実施し、市民の方への周知に努めています。

みんなで花を育て、花の絵や作文・詩などを作ったり、福祉施設との交流を行うことで、人権尊重の心を養います。

【活動場所】

「人権擁護委員の主な活動」

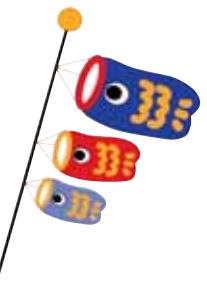
- ・ 社ショッピングパークBio
- ・ Aコープ滝野店
- ・ マックスバリュ東条店

④ **「子どもの人権SOSミニレター」**
小中学校の児童・生徒を対象に、誰にも相談できない子どもたちと手紙のやりとりを通じて、子どもたちの悩みを早期に発見し、解決への手助けを行います。





広域隣保活動



「回想法アフター」 ～昔の家を見に行こう～

昨年度の広域隣保活動事業でたくさんのご参加をいたいた、おしゃべりを通して一人ひとりの懐かしい記憶に働きかける回想法。

今年度は「回想法アフター」～昔の家を見に行こう～として、9月16日(火)・17日(水)・18日(木)の3日間にわたって、西脇市原町にある「豪農の館」(コヤノ美術館 西脇館)に行ってきました。

16日は主に厚利・薮・天神・大門地区から39名、17日は主に穂積・河高地区から29名・18日は主に社・南山・森尾地区から17名、計85名にご参加いただきました。昔懐かしい日用品の展示からは、音やにおい、肌触りなど五感を通して当時を思い出すことができ、地域の垣根を越えて、昔懐かしいお話を花を咲かせていらっしゃいました。



今回、加東市内の中学
生27名・教諭4名と岡山県
瀬戸市邑久町にある国立療
養所「長島愛生園」へ移動
研修に出かけました。

はじめに、歴史館(旧事
務本館)で、愛生園の概略
をビデオにて学びました。
館内では学芸員による展
示資料の詳細な説明があり、



加東市内小・中学生を対象に様々な人権問題について学習することにより、人権感覚を培い、将来地域の人権リーダーとして活躍することを目的とした講座です。

地域に学ぶ体験学習

ハンセン病の正しい知識を学びました。

**第3回ジユニアリーダー
移動教室**
「長島愛生園」を訪問

ジユニアリーダー研修は、

ハンセン病にかかると、末梢神経が麻痺し、感覚が鈍くなることで、身体を傷つけやすく、また傷がついても気づかないことから重症になります。一見して分かるところに変化が現れるので、手足が腐るなどの誤解によって差別されたそうです。参加者は真剣に耳を傾けていました。

昭和6年から平成8年までの90年にわたり「らい予防法」は入所者の方々を貴重なお話を聞くことができました。



続いての園内フィールドワ

ークでは、かつて患者が島へ船で着いた桟橋の跡、消毒するために入れられた水槽跡、園からの逃走した者が入れられた監房跡、納骨堂を見

学しました。

家族と引き離され、隔離された施設での生活に思いを馳せると、胸が詰まる思

いがしました。

現在愛生園におられる237人中90歳を超える方は44人で、直接話を伝えられる時間はのこりわずかだとおっしゃっていました。

私たちにはこの人権を無視した対処の痛ましさを、風化させることなく語り継いでいかなければならないと感じました。

第2次加東市男女共同参画プランが完成しました

チャレンジ！わたしにみんなにすみよいまちへ
～男女共同参画からはじまるまちづくり～

加東市では、平成21年度に加東市男女共同参画プランを策定し、まちづくりのあらゆる分野において男女が対等なパートナーとして参画できる社会の実現を目指すという方針のもと、男女共同参画セミナーなどの施策を進めてきました。このたび、更に市民一人ひとりが男女共同参画について正しい認識をもち、すべての市民が性別にいかわりなく、個人として尊重され、あらゆる場に参加・参画できるまちづくりを進め、すべての市民にとって住みやすいまちをめざすため「加東市男女共同参画プラン」を見直しました。また、DVの防止に向けた啓発や教育を進め、DV被害者の相談から保護、自立までの切れ目のない支援を推進するため、第4章に「加東市配偶者等暴力（DV）対策基本計画」を盛り込みました。

プランの策定にあたっては、市民の視点に立った計画づくりを行う

ため、各種団体の代表する方を含めた男女共同参画策定委員会とDV対策基本計画策定部会を設置しました。また、市民意識調査やパブリックコメント（意見公募）の実施など、市民のみなさまからいただいたご意見を踏まえながら、審議を進めました。

プランの中では、市民のみなさまや事業所のみなさまに取り組んでいただくことや、行政が取り組むべきことを明確にしてそれぞれの役割をわかりやすく示しています。このプランは、平成26年度を初年度として、平成30年度を目標として、平成30年度を目標とする5か年の計画です。

市民のみなさまには、すでに概要版を6月号広報とともにお届けしています。



第1回

「こころがホッとするセミナー」

～男女が互いを大切にする生き方を求めて～
－自分を知る 見方を広げると－

講師 大東 太郎さん



加東市
男女共同参画



6月25日、加東市役所において大東先生をお迎えして、男女共同参画セミナーを開催しました。参加者から大変な好評をいただきました。

○日頃無意識のうちに思い込んでしまっていた事柄に気付かされた。
○アットホーム的なセミナーでした。本当にこころがホッとする感じをおぼえました。男女共同参画の重要性を、しみじみと考えさせられました。

- 4人1組だとわいわい話が出来てよかったです。
- 楽しく研修をさせていただきました。相手の気持ちを考え行動、言動に気をつけて生活していきたいと思いました。
- 大東先生のご講話は大変良かった。先生のお人柄がにじみ出ていて、ホッとしたお話をでした。参加型で考える場が多くたのがよかったです。

※12月10日(水)14:00～社福祉センターで第3回が開催されますので、ぜひご参加下さい。



7月12日

人権啓発講演会



松田島悠人さん 常峰冬椰さん 橋広将さん

加東市長 小野・加東保護区保護司会
加東支部長 小林健さん

7月12日（土）、東条文化会館（コスミックホール）において、家庭、学校、地域などあらゆる立場から人権を考える学習の場として、「人権啓発講演会」が開催されました。

講師には、やさしくなろう～不ツイターの「しまむらかずおさん」をお招きし、「やさしくなろう～コンサート」～心のリンゴをあなたにも～を上演いただきました。

また、講演に先立ち、小学生3人による人権作文（全文はP10（11で掲載）の朗読と「社会を明くるする運動」に係る法務大臣のメッセージ伝達も行われました。

楽しい中にも深みのある語りと、優しく伸びやかな歌声は、深く胸に響くものでした。歌を通して、命の大切さや人が人を思う気持ち等、日々の生活の中での人権から同和問題や震災といった幅広い人権についてお話をいただき、参加者の一

人ひとりが「人権」について改めて考える良い機会となりました。

講師プロフィール



高知市の職員時代から、社会教育主事として、青少年、人権、自治活動などの市民運動を推進。その一方でシンガーソングライターとしても活躍し、市民100人による「ミュージカル RYOMA」の劇団座長と音楽監督も努めた。その後、全国の学校等600か所で「やさしくなろうコンサート」を巡演。東日本大震災後は、「被災地の学校にピアノを贈る運動」を開始。これまでに東北の子どもたちに33台のピアノを届けた。

- ◆ 人間関係は相手の出方で決まる。
（60代・男性）
- ◆ 命の大切さ、人権の大切さ等を曲に取り入れながらの講演はとても良く時間があつという間に過ぎました。やさしくなろう!!を心がけたく日々の生活に取り入れたいです。頑張るゾ！（60代・女性）



ご来場いただいた皆さんのお声

◆これまで与えられてきたものを日々の生活中で他人に与えられるようになりたいと感じた。（40代・男性）

◆普段の生活中で人と人との関わりや触れ合いを会社や学校で過ごし、そして、1日の出来事を家庭で話し合いながら、日々それぞれ成長していくということを再確認できる時間でした。（40代・女性）

◆笑いあり涙ありのいいコンサートでした。しまむらかずおさんの優しい人柄が伝わってきました。温かい気持ちになりました。（50代・女性）

ぼくは何も言っていないけど、放送する時間がおそいので心配して来てくれたのです。ぼくは、心から「ありがとう。」と言いました。二人とは、このときからもっと仲良くなりました。

もし、あのとき友達が助けに来てくれなかつたら、自分の仕事がちゃんとできていませんでした。困ってパニックになっていたぼくは、助けをよぶことなど考えつきませんでした。だから、困っている人を見たら、積極的に声をかけることが大切だと思いました。これも思いやりの大切さで、人と人が仲良くなっていくことになると思いました。

ぼくが、家族や友達から学んだことは、思いやりの心は、人と人をつなぐ大切なものです、これが人権を尊重することだと思います。



『ぼくの友達』

東条東小学校

たちばな
6年 橘 広将

みなさんは、どんな友達がいますか。ぼくには、侑季くんという真面目でしっかり者の友達がいます。その侑季くんとは、ずっと同じクラスで同じ登校班ですが、なかなか積極的に話しかけられず、あまり仲良くありませんでした。しかも登下校はいつも車で、ぼくは、「侑季くんだけ何でいつも車なん。いいなあ。」とうらやましく思っていました。

ところが、三年生の道徳の時間に、侑季くんについて先生からお話をありました。その話を聞いて、ぼくの思いは大きく変わりました。侑季くんは生まれてすぐのころから、脳に傷がついて、左の手足が緊張して動きにくいということでした。だから、少しでもよくなるように、毎月数回病院に行き、筋肉をやわらげる注射をうったり、緊張をとるためのリハビリをしたりしているそうなのです。最初はとてもいたくてつらかったそうです。そんなことは、ぼくには絶対にたえられません。そんな苦しいことをやってのける侑季くんはとてもえらいと思います。

また侑季くんは、マジックテープがたくさんついた重そうなくつをはいています。かかとを地面につけて歩くように、足首を固定するため

にマジックテープがたくさんついているのです。実際にそのくつをさわってみるとすごく重いし、はきにくいです。ぼくだったら、

「あのう。テープをとめるの手伝ってくれる。」と、すぐ甘えて、友達にお願いしてしまいます。でも、侑季くんは、人にたよらないで、どんなに急いでるときでも、このくつをいつも一人ではいていました。人にはたよらず、いつも自分の力でやってのける侑季くんをすごいなあと思います。侑季くんのことがよくわかってくると、侑季くんが車で登下校するのはあたりまえのことだと思えてきました。

侑季くんががんばっていることは、他にもあります。水泳やマラソンです。侑季くんはうでを大きく回したり、水の中でバランスをとったりすることが難しいです。でも、去年の水泳交観会では、クロール二十五メートルを自分の力で泳ぎきました。一分以上手足を動かし続けている侑季くんに、ぼくたちは大きな声で応援し続けました。またマラソン大会でも、自分の速さで二キロメートル走りきました。ぼくは、侑季くんの努力する姿と、最後までやりぬこうとする根性をみて、「ぼくも負けてられない。しっかりしたい。」と思いました。

侑季くんのことが少しずつ分かってきて、ぼくは自分から積極的に侑季くんに話しかけるようになりました。同じ地区の仲の良い彩花さんと一緒に遊びにさそったり、お祭りにさそったりしました。そのおかげか、物静かだった侑季くんも話してくれるようになり、ぼくも話しかけやすくなって、より仲良くなりました。ぼくはとても嬉しいです。

ぼくは侑季くんの姿を見ていて、不便なことがあっても、つらいことがあっても、絶対にあきらめず努力すれば、必ずできるようになることが分かりました。そして、友達のことが分かれれば分かるほど、もっと仲良くなれることも知りました。お互いに良さを知り、お互いに認め合うことが大切だと思いました。ぼくは侑季くんの姿から、これからの自分にとって大切なことを学びました。

これからも侑季くんは、ぼくにとって、とても尊敬する、大切な友達です。

※この作文は7月12日に開催した「人権啓発講演会」で発表されました。





『あいさつ』

福田小学校

6年 松田島 悠人

みなさんは、日頃あいさつをしていますか。ぼくの家の近所に、気になるおじさんがいます。そのおじさんは、歩行補助機のようなものを使って、あるいておられる日や、車いすに乗られている日もあったりします。つかれられたのか、地面にすわっておられる姿も、よく見かけます。

ぼくは、おじさんの家は、なんとなくですが分かります。でも、おじさんことはよく分かりません。他にも、家族はおられるのか、仕事はされているのか、食べ物はどうやって買いかかれているのか、車には乗られるのかなど、気になっていることは色々あります。

気になっていることは色々あるのに、おじさんを見かけても、「おはようございます。」や「こんにちは。」と声をかける事ぐらいしかできません。それが気になったので、お母さんにそのことを話してみると、

「毎日あいさつしてくれた小学生がいるだけで、おじさんは安心できるものなんちがう?」

とお母さんは言いました。そのときぼくは、「そんなもんなんかなぁ。」と思ったけれど、もしかしたらそれが大事なのかもしれません。

たしかに、あいさつをしていれば、おじさんも、自分の存在を知ってくれている人がいると思えば、安心されるだろうし、ぼくも、あいさつをすれば気持ちが良くなります。もしおじさんの体調が良くなければ、声や様子で分かると思うからです。それは、みんな同じことが言えると思います。

「おはようございます。」や「こんにちは。」と言う一言から、地域の人との交流が生まれ、人の輪も広がっていくと思います。同じあいさつでも、意識して、立ちどまり、相手の目を見て、あいさつをして、人の変化に気づくことが、大切な人権を守る第一歩だと思います。だからこれからも、あいさつを心がけていきたいと思います。そして、いつも、今、自分になにができるかを考えながら、人とふれあいを大切に生活していきたいと思います。



『思いやりの大切さ』

三草小学校

6年 常峰 冬椰

ぼくは、祖母と母から相手を思いやることの大切さを学びました。

ぼくの祖母は、年をとっていますが、畑仕事をがんばっています。その上、仕事が忙しい母の代わりにご飯を作ったり、おふろの準備など家のこともたくさんやっています。

ある日、仕事からおそく帰った母が、二才の妹の世話をしている祖母に、

「ありがとうございます。助かります。」

と言っていました。すると、祖母は、

「あなたもがんばっているからなあ。わたしのできることをしつるんやで。」

と答えました。この話を聞いていたぼくは、祖母と母は、たがいに相手のことを考えて助け合っているんだなあ、これが思いやりなんだなあと思いました。おたがいを思いやっているから、ぼくの祖母と母は仲良しです。ぼくも、祖母のように、家族のために自分ができることは、少しずつでも手伝っていこうと思いました。家族がおたがいを思いやる気持ちをもって助け合っていけば、祖母と母のようにやさしい言葉をかけ合って仲良くしていけるんだと気づきました。

次に、友達とはどうだろうかと考えました。ぼくは、学校では、積極的に友達に声をかけることは少ないです。でも、困っているときに声をかけてもらうと、とてもうれしくなるということが分かりました。

それは、ぼくが、情報委員会に入り、初めて放送をすることになったときのことです。一人で放送室に行き、放送しようと思ったらやり方が分からなくなってしまいました。放送しなければならない時間がどんどん過ぎていき困っていました。「どうやったっけ。どうやったっけ。」と、心の中はパニックになってしまいました。そのとき、二人の友達が放送室に入ってきた。

「やり方、分からへんの。」

「そのスイッチ入れるねんで。」

と教えてくれたので、無事に放送できました。パニックになっていたぼくですが、二人に助けてもらってほっとして、とてもうれしくなりました。

「人権文化をすすめる市民運動」

ポスター・標語の優秀賞・入賞作品

市内の児童生徒の皆さんを対象に、「人権文化をすすめる市民運動」ポスター・標語の募集を行い、
ポスター95点、標語167点の応募の中から、以下の優秀賞・入賞作品が選ばれました。
8月25日～9月9日までやしろショッピングパークBio多目的ホールで作品展を行いました。

〔標語の部〕

【優秀賞】

育てよう 自分の勇気と 思いやり
信頼は 人をつなぐ にじのはし
どしゃ降りの あの子の心に 君の傘
不審なサイト 見ない ふれない 近づかない
軽率に 自分の情報 書きこむな

入賞

見て見ぬふり それもいじめの一 つだよ
やさしさは みんなが持つてゐる 宝物
まちがいを 正せる勇気を もちたいな
ダメだよ 小さないじめが 大きなきずには
人にも海にも山にも花にも大事な命があるんだよ
いじめはダメ その後自分が 傷つくよ
いい言葉 つなげばもっと いいきもち
幸せだ みんなが笑つて くれるから
これでいい? 自分に問いかけ 正しい行動を!
考えよう 人のためにも できる事
一つの勇気 一つの声 一つの助けて 未来が変わる
ネットでの ささいな言動 トラブルに
目指そようよ 心も身体も バリアフリー
見ないふり それはいじめの 共犯者
かかえずに 人にたよつて いいんだよ

【ポスターの部】

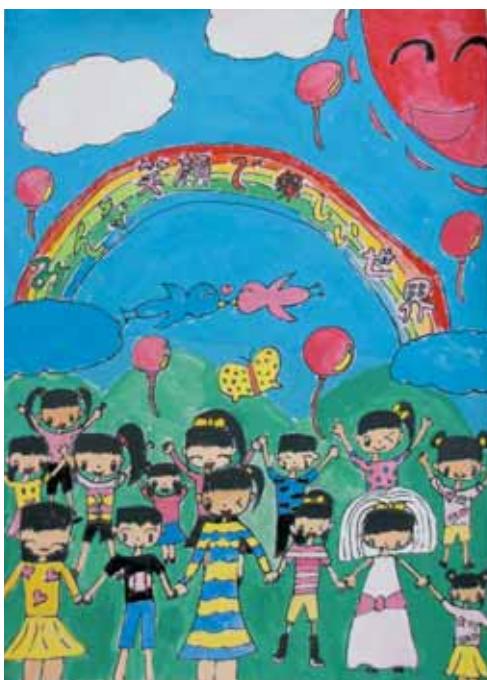
【優秀賞】



社小学校4年 アマオカ マナセス



鴨川小学校2年 神田 琉華



滝野東小学校5年 藤原 美里



社中学校3年 田尻 友花



優秀賞受賞のみなさんは8月25日に入権啓発展会場（やしろショッピングパークBio）にて、表彰状の授与と記念品の贈呈を行いました。

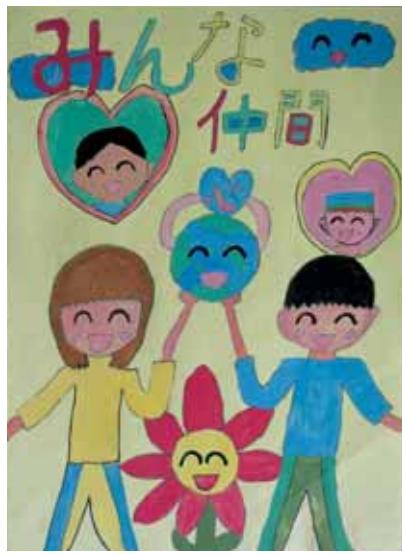
【入賞】



滝野南小学校5年 西之園 さくら



東条西小学校4年 田中 悠斗



滝野東小学校5年 松本 結生



三草小学校2年 伊藤 慧



東条東小学校4年 竹内 珠音



米田小学校2年 河村 遥斗

加東市マスコットキャラクター
「加東 伝の助」

福田小学校5年 井上 志音



社小学校4年 若松 鈴奈



加東市マスコットキャラクター
「加東 伝の助」



社小学校4年 渡邊 真菜



社中学校1年 森井 渉羽



滝野中学校2年 小松 瑞季



東条中学校1年 大崎 珠希



社中学校3年 藤本 麻由



社中学校3年 笹倉 詩織



社中学校3年 森本 愛

人権トピックス

12月4日から10日までの1週間は人権週間です



～生きがいと幸せを築きあう人間尊重のまちに～

加東市は、すべての住民がお互いの人権を尊重し合い、同和問題をはじめ、あらゆる差別のない「生きがいと幸せを築きあう人間尊重のまち」の実現を目指しています。

多彩な催しを通じ、参加者の相互交流を図り、人権尊重に根ざしたものを見方や考え方を身につけ実践していきましょう。

人権啓発展

- ・日 時 平成26年12月3日(水)～12月17日(水)9:00～22:00
初日3日(水)は13:00から、最終日17日(水)は13:00まで
- ・場 所 やしろショッピングパークBio 2階多目的ホール
- ・内 容 市内保育園児による人権をテーマにした共同作品の展示

特設人権相談所を開設します

人権問題でお困りの方は、お気軽にご相談ください。秘密は厳守されます。

- ・相談日 平成26年12月4日(木)
13:30～15:30
- ・場 所 社福祉センター

※人権擁護委員が対応させていただきます。

街頭啓発活動

人権週間の期間に実施します。

- ・日 時 平成26年12月4日(木)
16:00～
- ・場 所 やしろショッピングパーク Bio
Aコープ滝野店
マックスバリュ東条店



本人通知制度

本人の知らないうちに不正に職権等を利用して「出身地」「家族構成」などを調べられることがあります。

代理人や弁護士など第三者が住民票の写しや戸籍謄抄本などを取得した場合に、本人に知らせる制度が「本人通知制度」です。通知を希望する人は事前登録が必要ですので登録手続きをしましょう。

問い合わせ／市民課(庁舎1階)
電話：43-0390



人権を考える市民のつどい

- ・日時 平成27年2月14日(土)
13:30～
- ・場所 滝野文化会館
- ・内容 ・中学生による人権作文発表
・住民学習実践報告

隣保館相談事業・特設総合相談所

人権や生活の相談をお受けします。お気軽にご相談ください。秘密は厳守されます。

- ・相談日 平成27年3月10日(火)
10:00～12:00 久米公民館
13:00～15:00 窪田隣保館

発行

加東市人権・同和教育研究協議会

TEL 0795-43-0544
〒673-1493
兵庫県加東市社50

FAX 0795-43-0559